



新潟市民病院

専門研修プログラム 専攻医募集案内

NIIGATA CITY GENERAL HOSPITAL
SPECIALTY REGISTRAR RECRUITING GUIDE BOOK



新潟市民病院
Niigata City General Hospital

道標

プロフェッショナルへの



所在地：〒950-1197 新潟県新潟市中央区鐘木463-7
病床数：676床
年間手術数：6975件
年間救急車搬入台数：5715件

内 科

INTERNAL MEDICINE



研修プログラムの特徴

内科専門医の関わる現場は多岐にわたり、地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）、内科系救急医療の専門医、病院での総合内科（Generality）の専門医、総合内科的視点を持ったSubspecialist等、必要に応じた可塑性のある幅広い役割を果たせる内科専門医を育成するプログラムです。

到達目標

- ①新潟市および新潟県の医療環境に合わせた実践的な医療を修学し、全人的な地域医療を行える内科専門医を育成します。
- ②高度な総合内科のGeneralityと内科領域Subspecialtyの習得を目指し、将来、全国の医療機関で受け入れられる能力を持った内科専門医を育成します。
- ③本院の理念である「患者とともにある全人的医療」を追求し、バランスが取れた社会人として、優れた人格もった内科専門医を育成します。

プログラム紹介

期間3年コース（6名）と4年コース（2名）の2つがあります。3年コースは、基幹施設2年間＋連携施設（2施設を選択）1年間の3年間となります。表はSubspecialty重点ですが、Subspecialty期間の短縮は可能です。2連携施設は表のAとBとなり、この連携施設Subspecialtyは最大6ヶ月です。4年コースは、新潟県地域枠専攻医のみを対象とします。前期2年間で1連携施設で、後期2年間で当院で行います。

※当院の専門研修は、消化器内科、循環器内科、内分泌・代謝内科、腎・リウマチ科、呼吸器内科、脳神経内科、血液内科、救急科、感染症内科、総合診療内科が協力して行います。

3年コース スケジュール例

1年目	2年目		3年目
新潟市民病院	連携病院 A Subspecialty	連携病院 B	新潟市民病院 Subspecialty

順不同

4年コース スケジュール例

1年目	2年目	3年目	4年目
連携病院	連携病院	新潟市民病院 Subspecialty	新潟市民病院 Subspecialty

連携病院

- ① 3年コース：新潟南病院、木戸病院、新潟大学医歯学総合病院（新潟県新潟医療圏）、新潟県立坂町病院（新潟県下越医療圏）の内、2施設を選択します。
- ② 4年コース：厚生連長岡中央総合病院（新潟県中越医療圏）、上越医療圏の厚生連上越総合病院（新潟県上越医療圏）の内、1施設を選択します。

総合診療科

GENERAL INTERNAL MEDICINE



研修プログラムの特徴

基幹施設である新潟市民病院は救命救急センターなどを併設する高次医療機関であり、都市型のプライマリケア、重症疾患や特殊な疾患、専門医療を必要とする患者の診療を学ぶことができます。連携施設は地域の小規模病院である新潟県立津川病院で、山間部での地域医療、入院や外来の診療、訪問診療や地元の健康教育など、診療所の支援などを学びます。様々な場面で患者や家族に寄り添える医師として学ぶことができます。

到達目標

高齢化社会の進展や核家族化などに伴い、必要とされる医療も多様化しています。高度医療のみならず、患者や家族の生活に密着した支援、予防医学や健康教育、地域の大多数の健康問題への対応、福祉への関わりなどを通して、地域住民の健康全般に関わり、地域住民がより良い生活を行えるように、寄り添って支える医師が必要です。患者や家族、多くの医療福祉関係者とコミュニケーションをより密に行い、地域全体に関わることが大切です。このような、地域全体のチームとして医療を行うことができる医師となることが目標です。

プログラム紹介

総合診療専門研修Ⅱでは、病棟診療として、臓器別ではない形で、成人・高齢の入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験します。外来診療では臓器別ではない形で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験します。新潟県立津川病院では総合診療専門研修Ⅰとして、生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなどの外来診療と、在宅ケア、地域包括ケアを経験します。その他、新潟市民病院で内科系（内科各科の中で希望や研修経験を含めて研修科を決めます）、小児科、救急科、産科・婦人科や整形外科などの研修を行います。

スケジュール例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	新潟市民病院						新潟市民病院					
	領域	内科						内科					
2年目	施設名	新潟市民病院			新潟市民病院			新潟県立津川病院					
	領域	小児科			救急科			総合診療専門研修Ⅰ					
3年目	施設名	新潟県立津川病院						新潟市民病院					
	領域	総合診療専門研修Ⅰ						総合診療専門研修Ⅱ（その他を含む）					

連携病院 新潟県立津川病院

小児科

PEDIATRICS



研修プログラムの特徴

少人数制であり、一般的な疾患から専門性の高い疾患まで十分な研修が可能です。特に新潟市近郊を含めた救急診療の中心的役割を担っているため、一次から三次救急までの対応が習得できます。さらに小児外科と連携を密にしており、腹部疾患の初期診療なども十分な経験ができます。またスタッフは専門を持って診療にあたっており、専攻医が希望するサブスペシャリティ領域の疾患の経験が可能となります。

到達目標

日本小児科学会が定めた小児科専門医に求められる到達目標を中心に、問診・身体所見の取り方、診断治療へと結びつける幅広い知識・確かな技術の習得を目標とします。また医師として必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性を身につけます。さらに研究への関心を高めるとともに、小児科専門医資格に必要な筆頭論文については指導医の助言を受けながらテーマを決め、論文に必要な医学統計、文献検索などを修得します。

プログラム紹介

新潟市民病院を基幹病院として、小児科専門医として修得すべき25の領域の研修を行います。新潟大学医歯学総合病院では悪性腫瘍、膠原病、感染症コンサルテーションについて、新潟県立新発田病院では小児心身症と地域救急医療について、佐渡総合病院では一般診療以外にも健康増進、予防医学、育児支援などを総合的に担い、地域全体の小児を全人的・継続的に診療する能力を修得します（地域総合小児医療）。

スケジュール例

専攻医イと口の研修病院の順番を番号で示した。1年目と3年目は基幹施設、2年目は連携施設

	研修基幹施設 新潟市民病院 新潟医療圏	連携施設 新潟大学 新潟医療圏	連携施設 新発田病院 下越医療圏	連携施設 佐渡総合病院 佐渡医療圏	研修基幹施設 新潟市民病院 新潟医療圏
専攻医 イ	1	2	3	4	5
専攻医 口	1	4	2	3	5
研修期間	12か月	6か月	3か月	3か月	12か月

連携病院

①新潟大学医歯学総合病院 ②新潟県立新発田病院 ③新潟県厚生連佐渡総合病院

外科

SURGERY



研修プログラムの特徴

「鉄は熱いうちに打て!」手術手技は、多数の臨床経験で加速度的に向上します。当院外科での年間手術数は約2,000例、プログラム全体の年間手術数は約3,000例とHigh volume・High qualityな研修です。「手術のシャワーを浴びる」研修で手術技術の基礎が取得でき、学会参加、論文作成にて、「Academic surgeon」としてバランスのとれた外科医が育成されるプログラムです。

到達目標

- 1) 専門技能：外科診療に必要な手術手技・処置・検査に習熟し、これらの臨床応用ができる(Art)。
- 2) 専門知識：外科診療に必要な基礎的知識・病態を理解しこれらの臨床応用ができる(Science)。
- 3) 学問的姿勢：外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し、実践できる。
- 4) 倫理性・社会性：外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとしての適切な態度と習慣を身に着ける。

プログラム紹介

新潟市民病院外科（消化器・心血管・呼吸器・乳腺・小児）を基幹施設とし、連携先は9施設です。新潟市民病院での研修は2年間を基本とし、連携施設は1～2施設を自由に選択可能です。外科専門医の必要症例数は約1年半で到達可能ですので、その後はサブスペシャリティを考えた研修も可能です。また大学院への進学を並行して行える大学院コースも設定しました。

各領域発展コース

1年目	2年目	3年目
新潟市民病院	連携病院	新潟市民病院

外科全領域研修 → サブスペシャリティ領域の研修

連携施設は1～2施設を自由に選択可能

大学院コース

1年目	2年目	3年目以後
新潟市民病院	連携病院	大学院

外科全領域研修

新潟大学大学院への進学は、研修3年目を予定しています。進学後の専門研修は新潟大学で行い、大学院修了をもって研修終了となります。

連携病院

鶴岡市立荘内病院・新潟県立新発田病院・新潟県立がんセンター新潟病院・新潟大学医歯学総合病院・新潟南病院・新潟臨港病院・長岡赤十字病院・立川総合病院・新潟県立中央病院

整形外科

ORTHOPEDIC SURGERY



研修プログラムの特徴

新潟市民病院整形外科では全ての運動器疾患・外傷に対し高いレベルの急性期治療を行い、高いレベルの機能回復を目指します。本プログラムでは的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うために十分な能力を身につけることを目標とします。

重症運動器疾患や多発外傷症例が多く、救急科を始め他科と協力し急性期の高度治療を行っています。また重症から軽症までの各専門分野の専門医が治療を行っており、その指導のもとで十分な経験を積むことが可能です。

到達目標

整形外科専門医に求められる基本的診察能力、患者さんに向き合う姿勢、他の医療関係者との適切なコミュニケーション能力を診療現場で習得します。日本整形外科学会が定める専門研修カリキュラムに基づいた知識、技能の習得、経験すべき症例、手術を3か月ごとのローテーションで計画的に達成します。プログラムに参加する各病院の症例数は豊富で研修中に自ら執刀する手術件数も多く、年間120件以上、3年9か月間で約500件を目標とします。

プログラム紹介

当プログラムを構成する病院名、指導医数、年間新患者数、年間手術件数を以下の表に示しました。合計指導医数32名、年間新患者数14380例、手術数7207件で、多数の指導医からの確かな指導を受け、診察や手術の執刀や助手などの多くの経験を積むことが可能です。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能です。

参加施設 2018年実績	指導医 数	年間 新患者数	手術数								合計
			脊椎脊髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	
新潟市民病院	5	2087	388	180	306	503	17	20	44	30	1488
新潟大学医歯学総合病院	17	1185	233	199	237	96	30	22	32	139	988
新潟中央病院	5	5537	932	649	491	615	3	40	75	52	2857
佐渡総合病院	1	3304	51	314	323	209	41	6	8	15	967
会津中央病院	4	2267	30	94	70	695	1	0	0	17	907
合計	32	14380	1634	1436	1427	1568	92	88	122	253	7207

週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8~9時	検討会	検討会	検討会 抄読会	検討会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 脊椎術前検討会	手術 検査	手術 検査	手術 検査	手術

スケジュール例

年次	研修領域と研修期間			
1年目	手・上肢	下肢関節	脊椎・脊髄	流動単位
2年目	外傷(新潟中央)	手・上肢	下肢関節	脊椎・脊髄
3年目	腫瘍	小児	リウマチ	流動単位 リハビリ
4年目	佐渡総合病院	スポーツ	外傷	

3年目は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定。
他、希望に応じて救命科や麻酔科での先週も可能。

麻酔科

ANESTHESIOLOGY



研修プログラムの特徴

症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができます。特に超音波ガイド下神経ブロックおよび中心静脈穿刺、経食道心エコー検査、誘発電位測定に関しては、優れた指導医が在籍しています。

関連研修施設である新潟大学医歯学総合病院において、臨床麻酔を背景にもった基礎研究に早期から触れ、それらの基本的な知識について学習・指導を受ける機会も選択可能です。

到達目標

4年間のうちに、新生児から高齢者まで、軽症患者から多発外傷・重症患者までを満遍なく経験します。その過程で、各種ライン確保や超音波ガイド下末梢神経ブロック、経食道心エコー検査などの基本的な知識・技術を習得し、各種病態に適した術前・術中・術後管理を学びます。なお、ペインクリニック研修を新潟市民病院または新潟大学医歯学総合病院いずれかでの研修において必修とします。

プログラム紹介

研修の前半2年間のうち1年間を新潟市民病院で、もう1年を新潟大学医歯学総合病院にて研修を行います。残りの2年間については、専門研修連携施設AまたはBでの研修を基本とします。プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようにローテーションを構築しますが、専攻医のキャリアプランに合わせて、ペインクリニックや集中治療に特化したローテーションも考慮します。

スケジュール例

	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度前期	新潟市民病院	新潟市民病院	新潟市民病院
初年度後期	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (ペイン含む)
2年度前期	新潟大学	新潟市民病院 (ペイン含む)	新潟市民病院 (集中治療含む)
2年度後期	新潟大学	新潟大学 (ペイン重点)	新潟大学
3年度前期	長岡赤十字病院	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度前期	済生会新潟病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度後期	済生会新潟病院	県立中央病院 (ペイン)	新潟大学 (集中治療)

連携病院

専門研修連携施設A：新潟大学医歯学総合病院、新潟県立新発田病院、新潟県立がんセンター新潟病院、済生会新潟病院、長岡中央総合病院、新潟県立中央病院
専門研修連携施設B：長岡赤十字病院、魚沼基幹病院

救急科

EMERGENCY & CRITICAL CARE MEDICINE



研修プログラムの特徴

当院は新潟市とその周辺、人口約100万人規模を対象とする医療圏の救急医療の砦として機能しています。救急医が救急診療の核を担い、各診療科は最新の専門的医療を救急医療に反映させ、質の高い救急医療を実践しています。常にglobal standardを意識した診療をモットーとしています。当プログラムでは豊富な症例で臨床経験を積み、Evidence-Based Medicine (EBM) を重視し、適切な臨床判断のできる救急医の養成を目指します。

到達目標

本プログラムでは、急性疾患や外因性の病態や、重症度に応じた総合的判断に基づき、迅速かつ安全に急性期患者の診断と治療を進めるためのコンピテンシーを持った救急科専門医を養成します。特に多臓器の機能不全が重篤化する集中治療を要する病態においては中心的役割を担う医師を目指します。さらに地域における救急医療体制、特に救急搬送（プレホスピタル）と医療機関との連携の維持・発展、災害時の対応にも関与し、地域全体の安全を維持する能力の修得も目指します。

プログラム紹介

当院救急科は「救急外来（ER）」と「集中治療（ICU）」を診療の柱とし、プレホスピタル、災害医療にも積極的に参画しています。ER、ICU、プレホスピタル、災害医療、満遍なく研修可能です。外傷のIVRも当科で行っています。また、個々の専攻医の要望に柔軟に対応いたします。

勤務体制はシフト制、診療はグループ制をとり、診療の質の向上と医師の負担軽減を図っています。当科は女性医師が多いのが一つの特徴で、産休・育休の取得ももちろん可能です。

週間予定							スケジュール例			
時間	月	火	水	木	金	土	日			
8:30	ICU回診	抄読会 ICU回診	ICU回診	ICU回診	ICU回診			新潟市民病院救命救急・循環器病・脳卒中センター（救急・集中治療 12ヶ月）		
午前	ER・ICU・ドクターカー診療						シフト制	連携施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）		
午後	総合診療内科 合同カンファ		デスクカンファレンス					基幹施設研修（救急・集中治療6～12ヶ月）		
17:00	トリアージ検討会 （月1回）	Radiology conference （月1回）	プレホスピタル検討会 （月1回）	M&Mカンファレンス （月1回）	レジデント勉強会 （適宜開催）				地域僻地医療 研修（3～6ヶ月）	希望、必要に応じて他科ロー テート研修
夜間	シフト制									

（詳細は専攻医と相談の上、決定します）

連携病院

連携施設 新潟県立新発田病院・長岡赤十字病院・新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院・新潟県立中央病院・厚生連上越総合病院
関連施設 厚生連佐渡総合病院・新潟南病院・厚生連村上総合病院・新潟県立津川病院・新潟県立十日町病院・厚生連糸魚川総合病院

新潟市民病院

〒950-1197 新潟市中央区鐘木463番地7
TEL 025-281-5151 (代)

お問い合わせ 新潟市民病院 教育研修室
kensyu@hosp.niigata.niigata.jp